

建設トップランナー倶楽部

# 異業種連携で観光振興

建設トップランナー倶楽部(米田雅子代表理事)

と農林水産省は4日、第6回建設業と農林水産業の連携シンポジウムをオンラインで開催した。写真。今回は「インバウンド観光から地域を見つめ直す」をテーマとして、異業種連携で地域の観光振興に取り組むトップランナー企業が事例発表した。シンポジウムの冒頭、渡邊毅農林水産事務次官は「農林水産業・林業との親和性が高い建設業が

連携することによって、地域資源を確保することが重要」などと話し、異業種が連携してインバウンド観光や地域活性化に取り組む重要性を強調した。

米田代表理事は、2024年の訪日観光客数が過去最高を記録する中、地域住民の生活環境や景観に悪影響を与えるオー

パーツリズムの問題が生じているとし、「訪日客の活気を取り込みながら、地域環境の保全を両立させる取り組みが必要だ」などと話した。

事例発表では、長瀬工建(岐阜県高山市)の長瀬雅彦社長が「森とリトリート・ステイ in 飛騨高山」、佐久間建設工業(福島県三島町)の佐藤



岩男社長が「奥会津の大自然と向き合い地域とともに生きる」、大高建設(富山県黒部市)の大橋賢生専務取締役が「黒部峡谷・宇奈月温泉の未来を拓く観光戦略」をテーマに各社の取り組みを発表。事例発表者と農林水産省の幹部らの意見交換も行われた。